

## 『仲のよい友達』『おはなし』を読んで

弘前市立第三大成小学校

伊藤 咲 結

この本を選んだのは、一年生の時に学習した『おてがみ』がきっかけです。お手紙をもらったことがないと悲しむがまぐんのためにかえるくんが手紙を書き、二人でとどくのを待つお話です。手紙を書いたといわずに、「きつとくるよ。」

とはげまし続けるかえるくんのやささが心に残っていたので、他の話も読んでみたいと思いました。

一番心に残ったのは『おはなし』です。病気になるたかえるくんは、がまくんに

「おはなしをしてちょうだい。」

とねだります。がまくんはかえるくんのために必死にお話を考えるのです。

心に残った場面は、かえるくんのために必死にお話を作っている場面です。家の前をぶらぶらしてみたり、さか立ちしたり、頭に水をかけたり、頭をかべにドシンドシンとぶつけていたところが印象的でした。もしもわたしががまくんで

友達に同じ事をたのまれたらどうするでしょう。どんなお話にしたらいいか、あまり思いつかず、がまくんと同じようにしてしまうかもしれません。かえるくんは元氣になつてほしくて、じつとしていられないがまくんの気持ちが、とても伝わってきました。ただお話を作ればよいのではなく、このお話でかえるくんの病気を追い出したかったのだと思います。

作者は、たとえ、がまくんがお話を作つてあげられなくても、かえるくんががまくんの気持ちは伝わるよということを言いたかったと思います。なぜなら、かえるくんは自分のために必死に考えてくれたことがうれしくて、がまくんが病氣になった時、今度は自分が、がまくんがしてくれたことを話して聞かせたのです。きつと、ぼくのためにこんなに一生けん命になつてくれてありがとうと言いたかったから、「おはなし」にして返したのだと思います。

がまくんとかえるくんの物語は小さい子でも読めます。その中には、ほわっと心が温かくなる場面がたくさんあります。

がまくんとかえるくんの本を全部読んでみると、主人公の二人は、とても仲のよい友達だということが分かります。わたしにも友達がいます。がまくんとかえるくんのようにいつも二人でいっしょにいるというよりは、たくさんの仲のよい友達がいいます。二人がたくさんになっても、がまくんとかえるくんのように、おたがいに助け合って、みんなと仲よくした

いと思いました。

そのためには、相手のことを大切に思うことが大事だということも分かりました。自分がこうしてあげたいということではなく、友達はこうしてほしいのかなということを考えて、友達がこまっていたら、力になれる人になりたいと思います。